

令和4年12月23日

佐野市議会議長 山 菅 直 己 様

経済文教常任委員会委員長 横 井 帝 之

経済文教常任委員会行政視察報告書

- 1 期 日 令和4年11月14日（月）及び同月15日（火）
- 2 視察地及び視察事項
 - (1) 岡山県倉敷市
「学校プールの集約化・共同利用に関する取組について」
 - (2) 岡山県真庭市
「真庭バイオマス産業杜市構想について」
- 3 派遣委員 横井帝之（委員長）、澤田裕之（副委員長）、高橋 功、
鶴見義明、小暮博志、蘆原政夫
- 4 随行者 議事課 議事調査係 飯塚友美子
- 5 視察概要 別紙のとおり

倉敷市視察概要

(1) 岡山県倉敷市

倉敷市の概要

人口	478,234人(令和4年11月末現在)
面積	355.63km ²
議員定数	43名
政務活動費	月額150,000円 プラス会派の所属議員数により、 補助員に対して月額50,000円か月額100,000円

視察概要 「学校プールの集約化・共同利用に関する取組について」

○内容

倉敷市の取組の経緯

市立小中学校及び特別支援学校は全て専用プールを保有しています。しかし、平成30年度時点で築後30年以上経過している学校は65校にのぼり、全90校のうち約8割を占め、老朽化が進んでいました。こうした状況の中で、今後一斉に学校プール施設の建て替え時期を迎え、老朽化対策が必要になりますが、全て建て替えていくことは財政的に非常に困難な状況にあり、計画的な整備が必要となり、学校プールの集約化・共同利用に取り組んでいました。

○所感

『倉敷市学校プール施設長寿命化計画(個別施設計画)』を策定し、まず、隣接する沙美小学校と黒崎中学校の共同利用を開始しました。沙美小学校は、昭和49年設置の屋外プールで学級数4クラス、児童数23名の小規模校であり、黒崎中学校は、昭和47年設置の屋外プールで老朽化が進み、学級数8クラス、生徒数83名とこちらも小規模であったことで授業の調整がしやすく、施設が隣接していることから、移動やプール管理等の支障が少なく、プールの共同利用を実施することが出来ました。

共同利用のメリットは、プール施設を廃止することでプールの維持管理費の大幅な削減ができることです。デメリットは、学校間で授業の調整が必要になり、雨天による再調整も必要になること、また、移動時間による授業時間が圧迫されることと、移動に伴う引率の負担が増えることです。

佐野市においては、学校プールの築後年数が平均33年経過しており、50年以上経過している学校プールが3校ある状況です。また、一つのプールの年間維持費が150万円かかっています。今後、佐野市の学校プールの集約化・共同利用の取組に向けて、大変参考になりました。

真庭市視察概要

(2) 岡山県真庭市

真庭市の概要

人口	42,751人(令和4年11月1日現在)
面積	858.53k m ²
議員定数	24名
政務活動費	年間36万円

視察概要「真庭バイオマス産業都市構想について」

○内容

バイオマスツアー真庭・Aコース 木質バイオマスコース日帰り

実施日：令和4年11月15日(火)

- ・真庭市におけるバイオマス産業都市構想の概要説明
バイオマス事業の歩み。真庭市が目指すバイオマス循環による地域の暮らし
- ・真庭市役所本庁舎冷暖房チップボイラによる熱利用見学
- ・銘建工業本社見学 (CLT 建築・ペレット等生成)
- ・真庭バイオマス集積基地 (バイオマスの原材料集積・加工)
発電燃料となる間伐材や枝葉、剪定枝などの持ち込み風景
- ・真庭バイオマス発電株式会社見学 (木質バイオマス発電所)
地域木質資源燃料の供給システム。地域施設への電力供給について

○所感

真庭市は森林面積が80%と多く、森林の所有者に少しでも還元したいと市を上げて森林の有効活用としてバイオマス事業に取り組んでいます。佐野市も森林面積が60%と多い市であり、今後ゼロカーボンシティに向け学ぶ点が多くあります。真庭市は1990年頃、林業の衰退や過疎化の現状をどうにか変えたいと、バイオマス事業を軸に、中山間地が魅力ある持続可能な暮らしを実現するための取り組みとしてバイオマスタウン構想がスタートしました。バイオマス事業は単独の事業ではなく、一連の循環の完結を目指し、農業、工業、商業、教育、福祉や文化といった生活の全てがバイオマスという循環の輪で持続可能な取組となって繋がっています。今後の課題としては、森林産業の振興、新産業の創出、森林機能の回復としており、佐野市も目指すべき姿が真庭市にはあると感じました。